

## 拝啓

うっとうしい梅雨もあけ、夏本番をむかえようとしていきます。  
国鉄改革関連八法案も、九月初旬に招集される臨時国会に  
再提出され、集中審議をおこない成立という動向にあります。  
決つて国労のいうように、ダブル選挙に勝つて「分割・民営化  
を阻止しよう」という状況にありません。

ましてや国労の組紘は、全国大会に示されたように、主流派  
と反・非主流派との対立。現役を退いたはずのOBや激闘  
のボスたちの相も変らぬ裏取り引きとだましあいに終始  
しました。取場の組合員の雇用不安や、大会への期待に  
何ら答えることなく、時間延長して閑会しなごす。

こんな国労の組紘に未来はありません。事実、今、全国  
で国労脱退、動労加入の雪山崩がおきています。私達と  
共に、新事業体の未来を切り開き、労働運動の新生を  
はかるために最後の決断を。動労は待つていきます。

## メンツとタテマエは守れ！ 「大胆な妥協」＝三文役者のペテン？！

労働組合ではない証拠が「労使共同宣言」であった。まともな組合は絶対に「共同宣言」に調印してはならない。

国労が「鉄労以下」と言う、「資本の軍門にくだった」と言う動労と同じ立場に立つべきではない。いまさら「宣言」を調印することは、まさに「動労以下」となることだ。

大胆な妥協によって「組織と雇用を守る」ことは、輝ける国労の破産を意味する。総評の中軸・大国労は総評大会での多数派形成に成功した。「分割・民営」反対の基本線を堅持することこそ、3500万の署名にこたえる道ではなかったのか？ 今さら「組織と雇用を守るため」に大胆な妥協をするというのは疑いもなく総評や協会派、日共の期待を裏切ることの意味する。

大国労はそのような恥知らずの道をとるべきではない。

国労の幹部たちの歩み続けてきた道は「幹部の地位と雇用を守るための道」でしかなかった。だからこそ、彼らはかの偉大なメンツもかなぐり捨てて、おのれの地位保全のために当局や政治家にベコベコ頭を下げ、あのいまわしい「反労働者的」な「労使共同宣言」を調印するために狂奔しているのである。「大胆な妥協」は力のある者、理性のある者にしてはじめて行ないうるものである。妥協とペテンは相容れないのである。

三文役者のペテンはもう見飽きている。

力があれば妥協もできよう。だが 力がなければ自分の組織さえまともめきれないのではないかい

全国大会とは名ばかりの、派閥の取り引きとOB・ボスどもの駆け引きの場が国労の大会ではなかったのか。大会代議員の討論など、ボスの駆け引きの伴奏程度の代物でしかない。

「大胆な妥協」とは、共同宣言調印への物乞い運動の別名である。いま聞こえるのは悲鳴のみ。哀願のうめきのみ！

国労組合員の利益は、国労幹部とその下での組織によっては絶対に守ることはできない。

いま気付いても遅くはない。いま実行に移れば間に合う。

勇気と理性ある国労組合員をわれわれは歓迎する。

1986年7月26日

国鉄動力車労働組合  
執行委員長 松崎 明

# 動労に加入し、雇用を守ろう！

「壮大なゼロ」と化した国労大会

国労第四九回全国大会の行方を「見極め」、その「去就を決意しよう」としている国労組合員の皆さん！

この大会に寄せた皆さんの「熱い期待」は、ものの見事に裏切られてしまった。山崎委員長「決断する時は大胆に行いたい」という提案で混乱を続けた大会は、主流派、非・反主流派とのゴマカシの妥協のうえに終了した。

この国労大会には序章があった。総評大会である。「がけっぶちに立った」「国労にぜひ力をかして」と哀願し、「国労救済の大合唱」を演出したのであった。この「国労救済の大合唱」は、国労が「大胆な決断」を決定することが前提であった。その意味で、この「妥協」はせっかく「演出」した総評大会での「国労救済の大合唱」をも無にしてしまったのである。「壮大なゼロ」と化した国労大会、これが多くの時間を費やして繰り広げられた組合員不在の「不毛な論争」の結論である。

この「妥協」によって今後の国労丸の運命は決定された。それは、決して港に辿り着くことのない「最後の航海」である。この国労丸の「最後の航海」で予測されることは何か。妥協という産物のうえに、沈没寸前の国労丸と一緒に乗り込んだ主流派、非・反主流派の「仲間たち」が、自分勝手にその進路を決めようとするということである。この争いのなかで、国労丸の沈没はさらに加速する。

国労丸は、あてのない航海に旅立とうとしている。いまこの国労丸に乗船することは、再び港に辿り着くことはないということである。現実をしっかりとみつめ、理性的に、そして勇気と自信をもって、いま、この国労丸から下船すべきである。わが動労は、組合員の「雇用は絶対に守る」ことを明らかにする。

真面目な国労組合員の皆さん！

残された時間は、あとわずかである。だが、いまならまだ間に合う。「活性化した鉄道事業体」をつくりあげることとおして、自分と愛する家族のその輝かしい未来を切り開いていこう。わが動労と共に！

一九八六年七月二六日



# 国鉄動力車労働組合加入届



ふりがな			
氏名			
※ 昭和 年 月 日生 (満 才)			
ふりがな	郵便番号		
現住所	電話( ) 局 番 ( 方呼出)		
所 属	地 本	支 部	職 名

国鉄動力車労働組合の主旨に賛同し加入します

昭和 年 月 日

氏名 印

国鉄動力車労働組合中央執行委員長 殿

# 組合員連絡用カード (地方本部控)

ふりがな	生年月日		
氏名	年 月 日 ( 才)		
現住所	郵便番号		
	電話 ( 方呼出)		
所 属	地 本	支 部	職 名

家族現住所			〒
家 族 氏 名	本人との続柄	年 令	最寄交 通機関
	父		線 駅・徒歩 分
	母		最寄の駅までの道順・目標を図示
続柄(本人)			
兄弟 人			
電話			

希 望 職 種	
健 康 状 態	
過 去 の 病 気	
特 殊 技 能	
趣 味	
運 動 競 技	
出 身 学 校 名	
国鉄内の知人	
特に希望すること	

# 国鉄労働組合脱退届

国鉄労働組合東京地方本部

執行委員長 殿

私は、国鉄動力車労働組合加入のため、国鉄労働組合を脱退します。

年 月 日

所属

職名

氏名

印

1986年7月26日、国鉄職員官舎に於いて、封筒に入れて配布されたもの。

B5、B4判

国鉄動力車労働組合による国労脱退、動労加入勧誘ビラ。

国労脱退届け、動労加入届付き。

1986年7月26日は、7/22～7/25の国労49回大会（千葉）の翌日である。